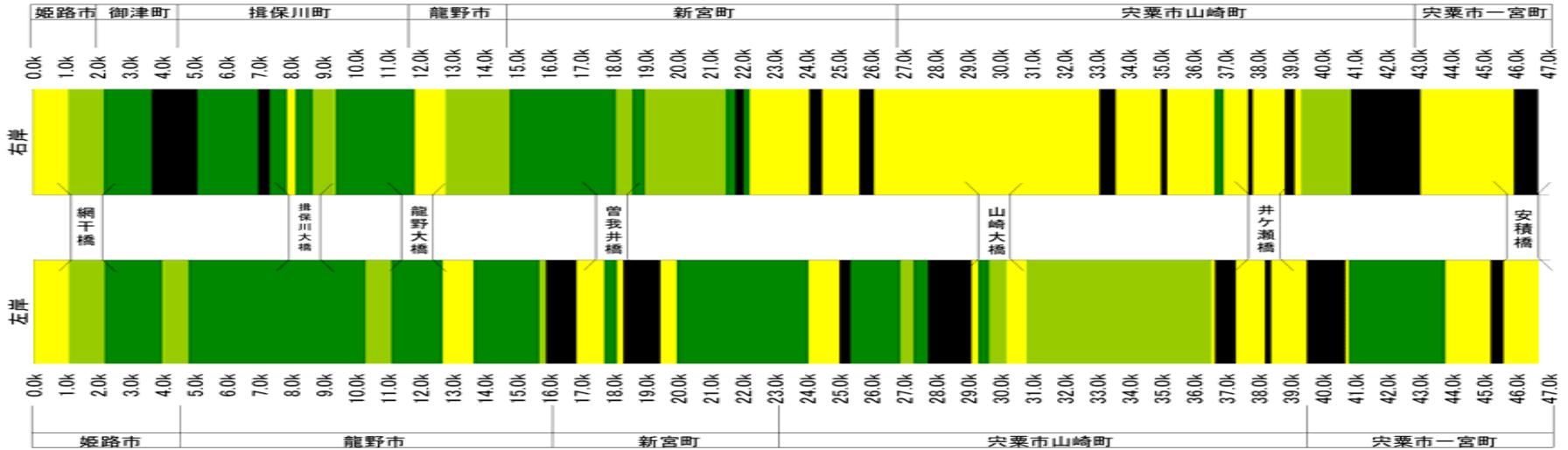


「流す」方策（量的対策）

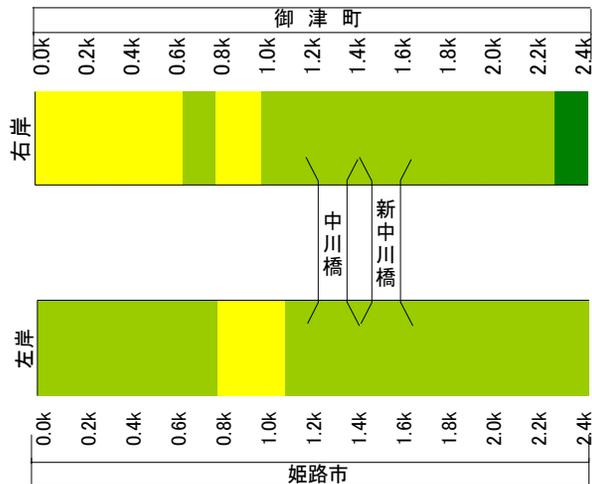
整備目標規模設定の考え方

堤防の整備状況

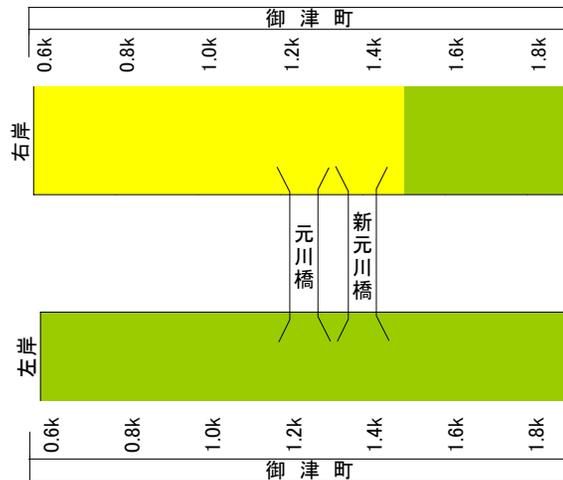
揖保川



中川



元川

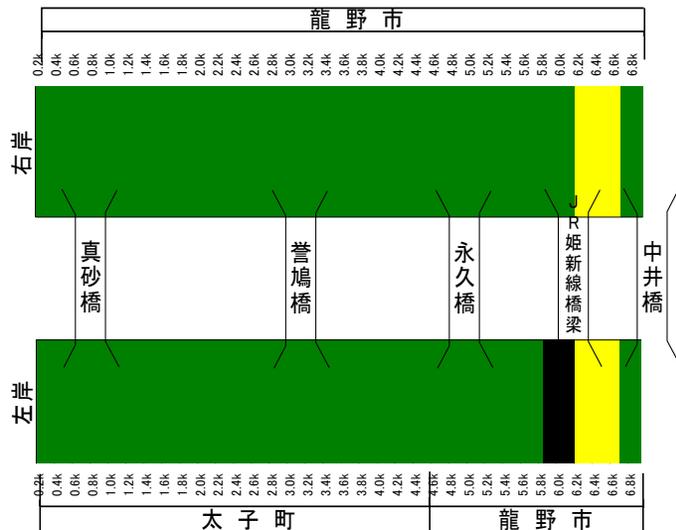


- 完成堤防
- 暫定完成堤防
- 未整備
- 不必要区間

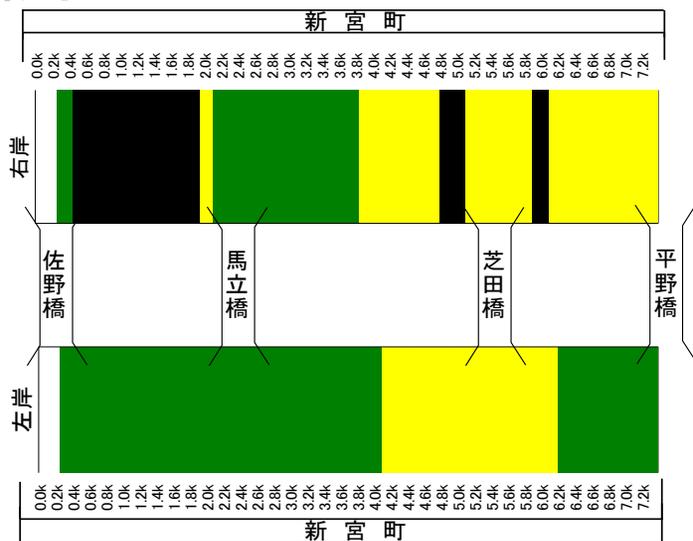
※堤防の整備状況を50m毎に表示

堤防の整備状況

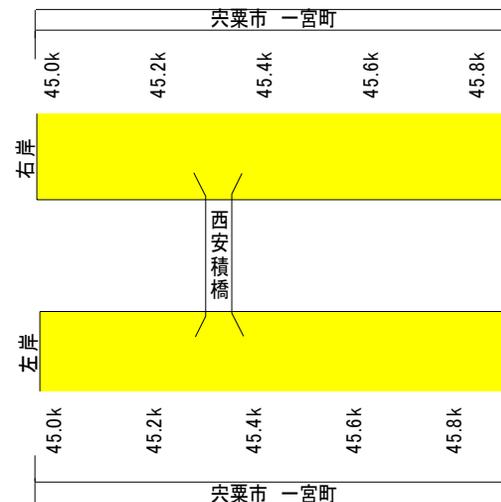
林田川



栗栖川

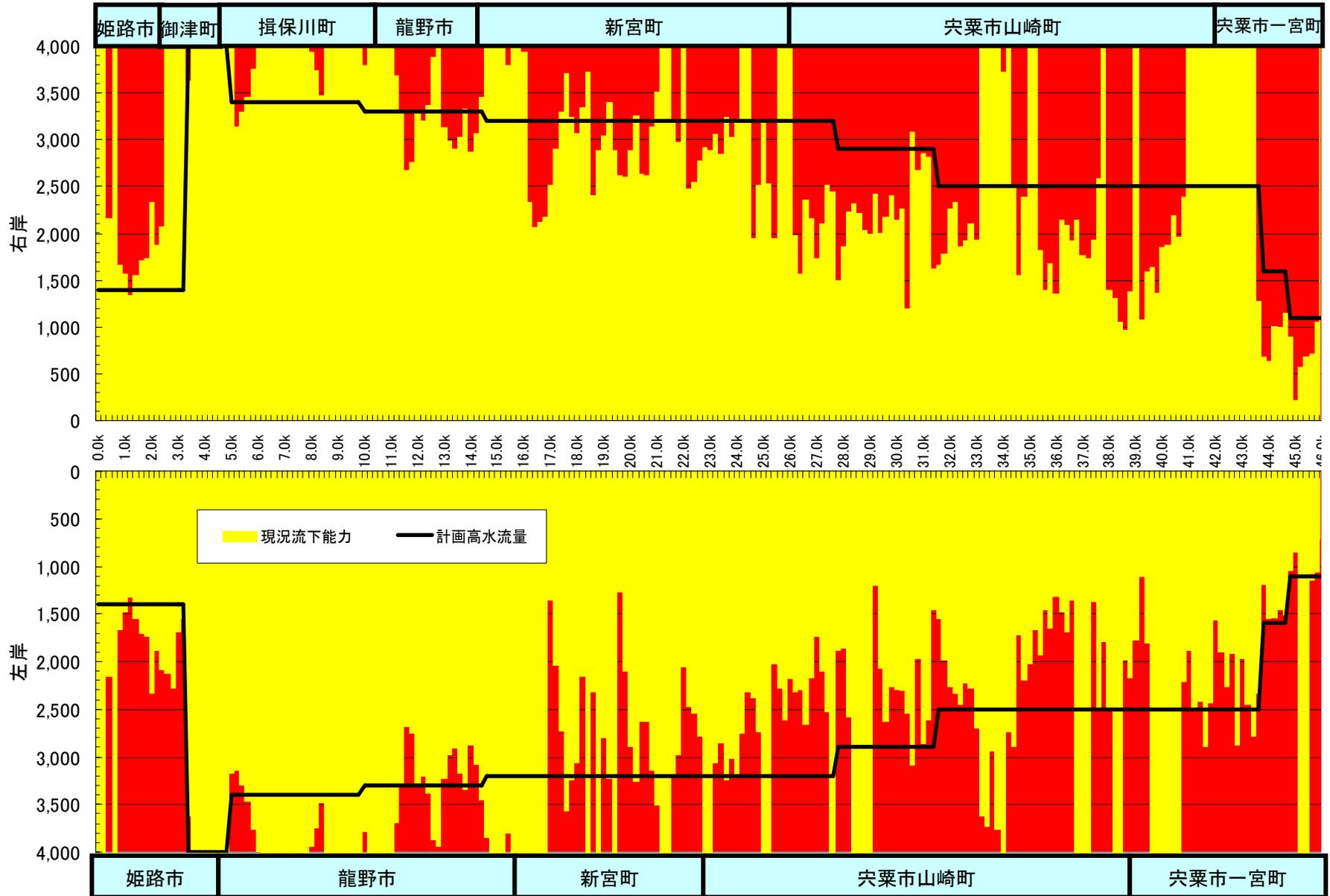


引原川



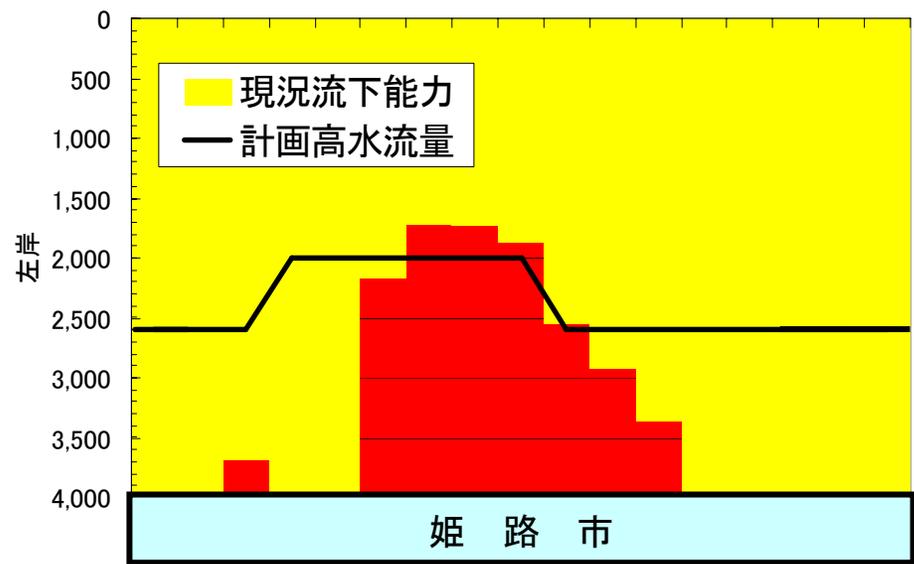
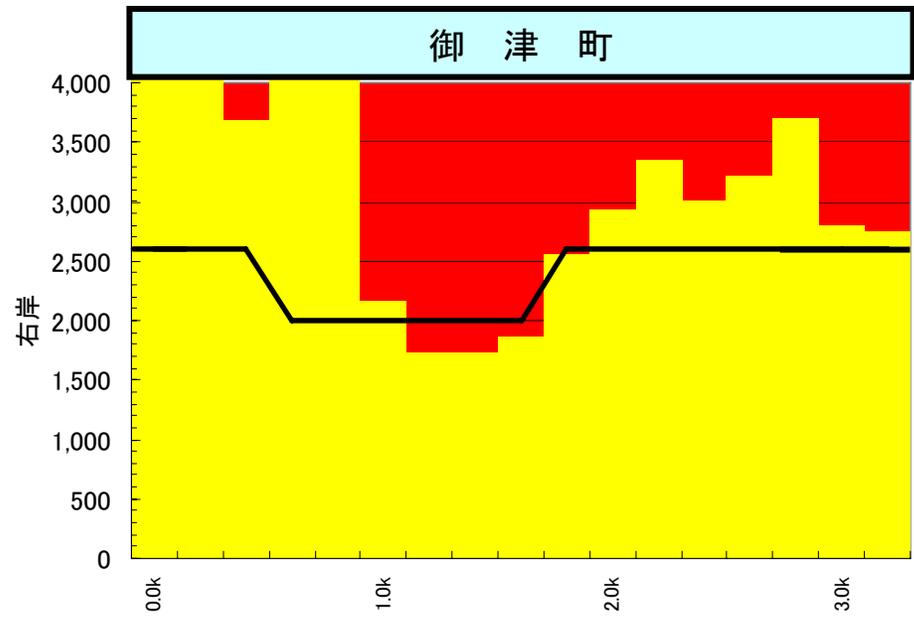
※堤防の整備状況を50m毎に表示

○ 現況河道の流下能力（本川）

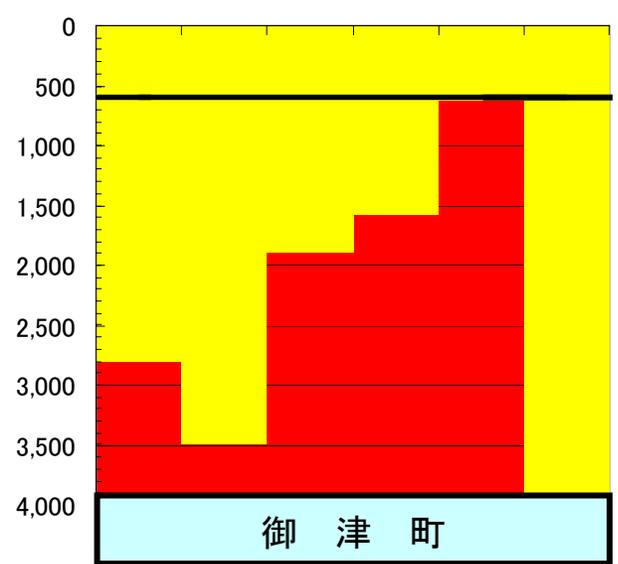
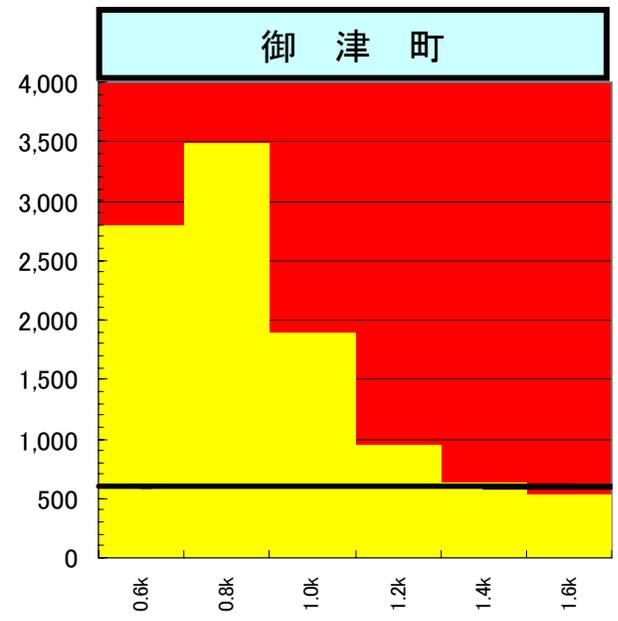


○ 現況河道の流下能力（支川）

中 川

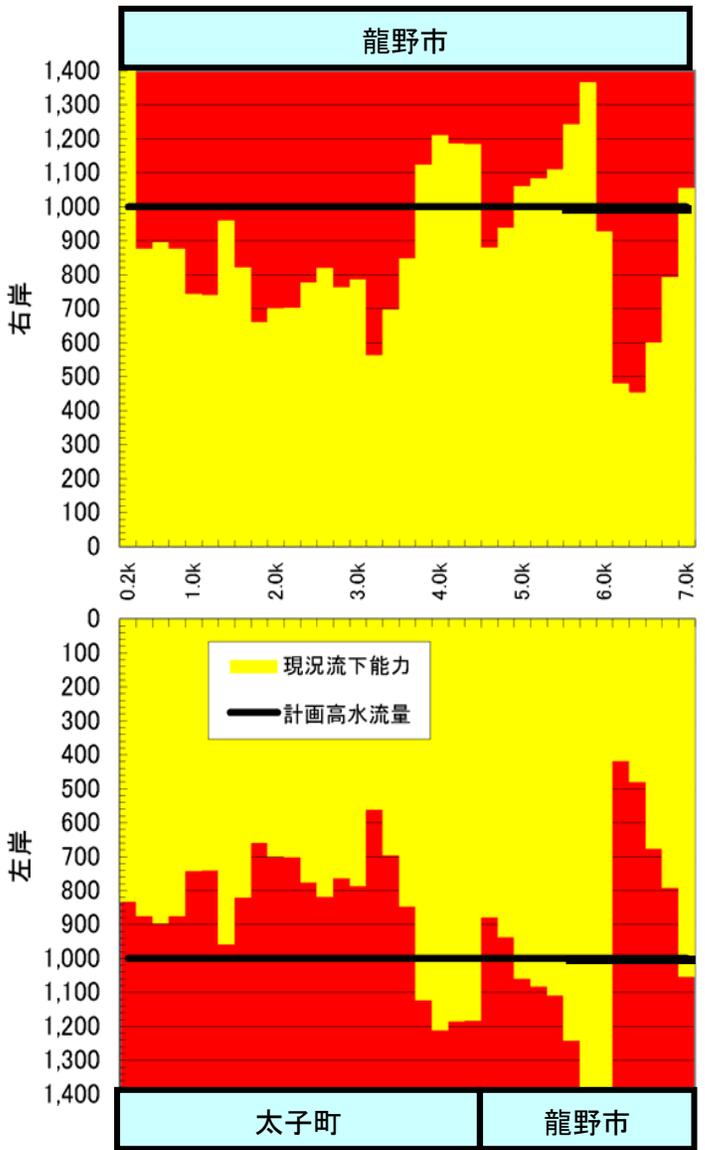


元 川

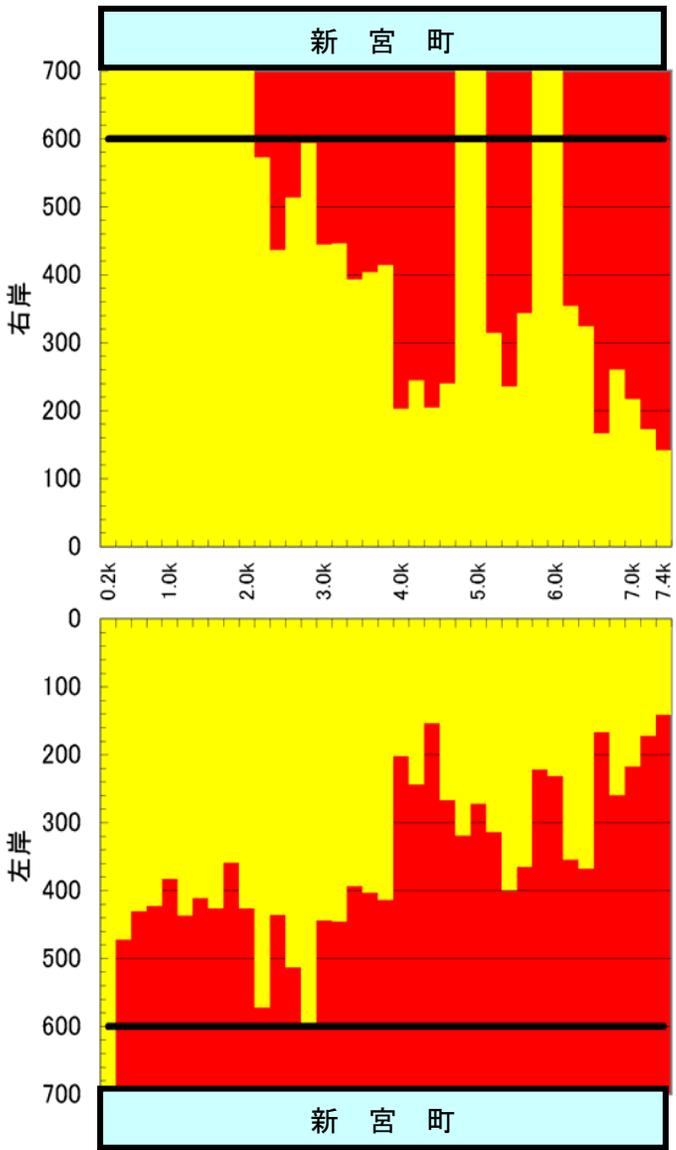


○ 現況河道の流下能力（支川）

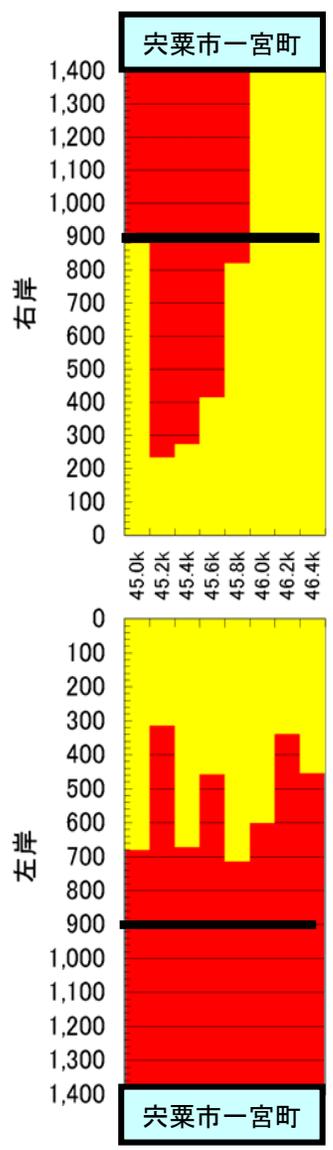
林田川



栗栖川



引原川



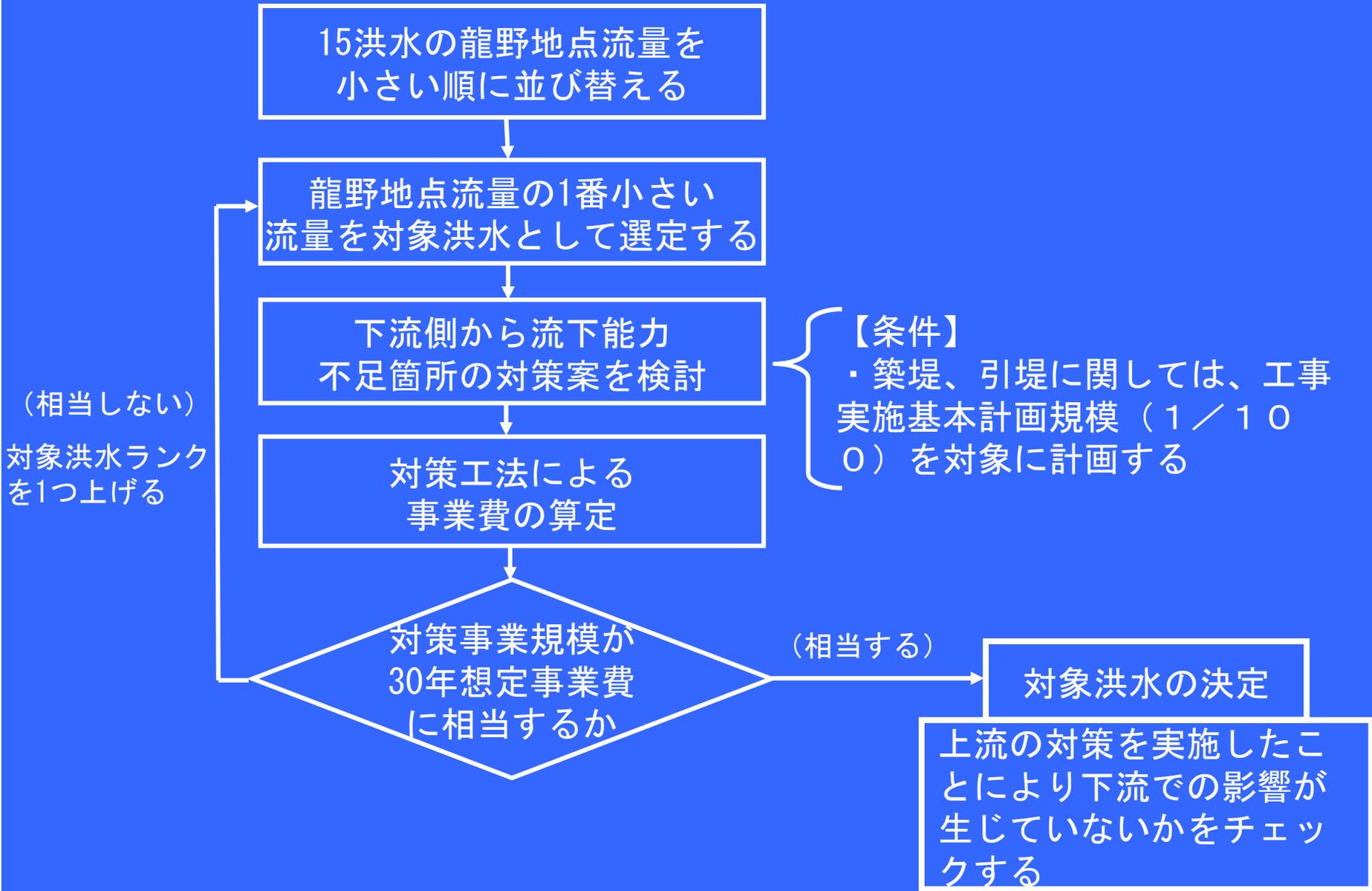
5. 1 「流す」方策の検討

5. 1. 1 対象洪水と対策箇所選定の考え方

- ①主要 1 5 洪水の龍野地点流量の小さいものから、順次流下能力の不足する箇所を抽出する。
- ②抽出された箇所の対策は、下流側から検討する。
- ③抽出した箇所毎に対象洪水の対策工法を検討し、事業費を算定する。
- ④対策事業規模が 3 0 年間想定事業規模に相当するまで②～③を繰り返す。
- ⑤対策事業規模が 3 0 年間想定事業規模に達しない場合、①の洪水ランクを上げる。

※ 3 0 年間事業費は過去 1 0 年間の予算動向より概ね 4 0 0 億円程度を想定している。

○対象洪水選定フロー



※主要15洪水において氾濫頻度が高い箇所が漏れていないかチェックする

①主要15洪水の龍野地点流量の小さいものから、
順次流下能力の不足する箇所を抽出する。

②抽出された箇所対策は、下流側から検討する。

③抽出した箇所毎に対象洪水の対策工法を検討し、事業費を算定する。

④対策事業規模が30年間想定事業規模に相当するまで②～③を繰り返す。

⑤対策事業規模が30年間想定事業規模に達しない場合、①の洪水ランクを上げる。

※30年間事業費は過去10年間の予算動向より概ね400億円程度を想定している。

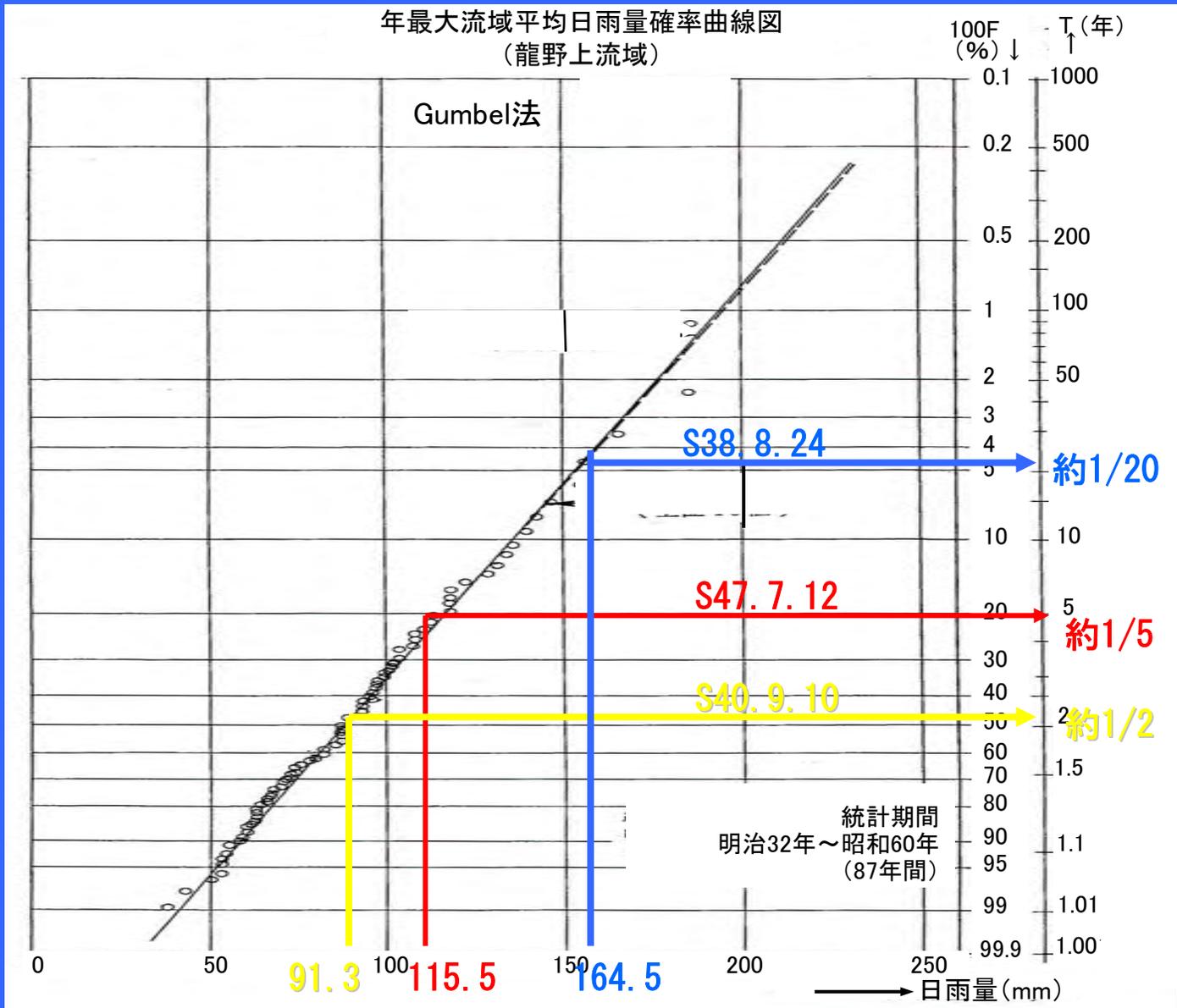
○対象洪水

現在継続事業、堤防質的対策及び30年間想定事業規模を勘案し、試算した結果、S47年7月12日洪水となった。

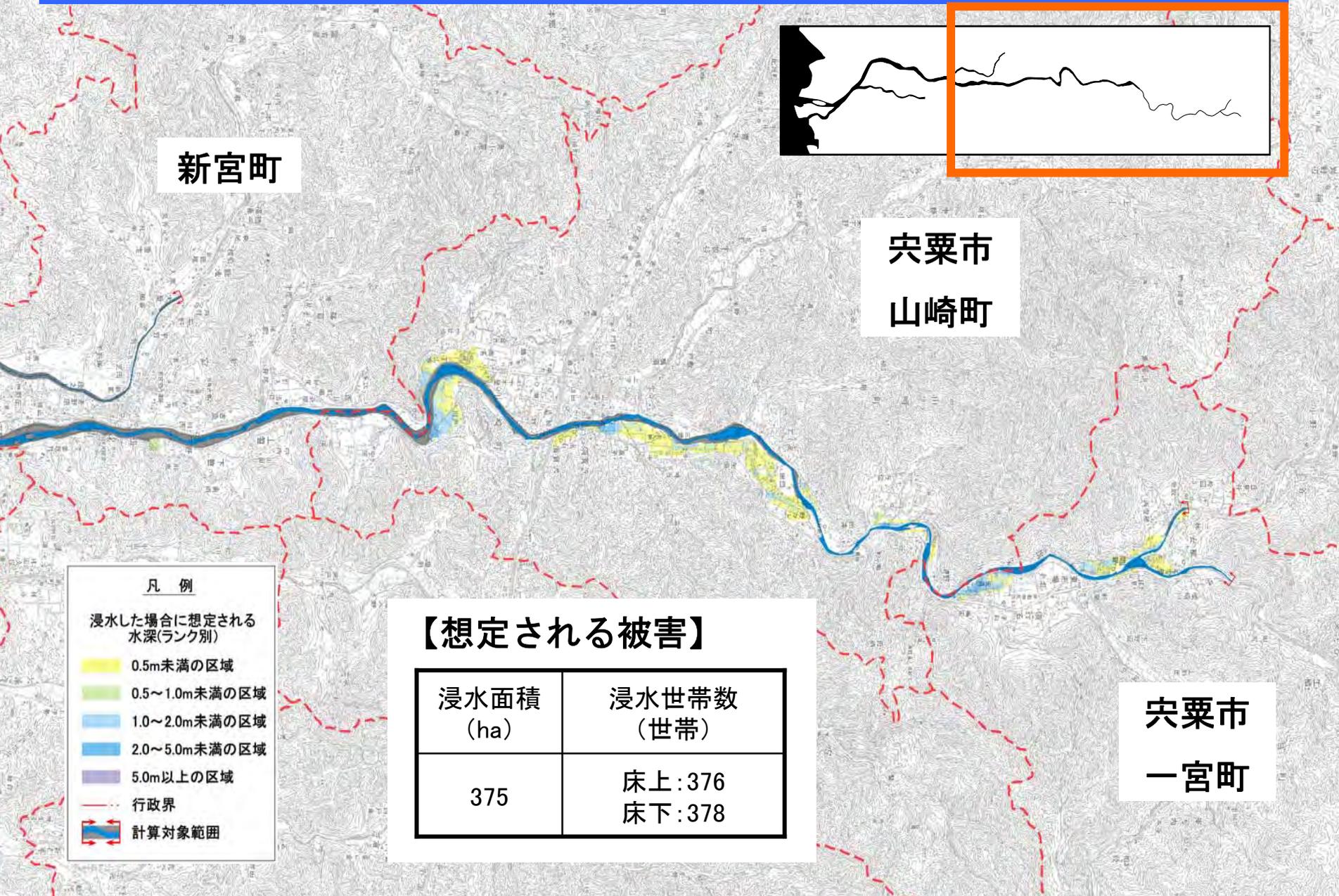
	洪水生起年月日	竜野地点最大流量 (m ³ /s)
①	S45.8.21	2,900
②	H10.10.18	2,403
③	S40.9.10	2,230
④	H16.9.18	2,228
⑤	H2.9.18	2,177
⑥	H16.8.31	2,133
⑦	S51.9.11	2,031
⑧	H16.10.20	2,016
⑨	S39.9.24	1,967
⑩	S40.7.22	1,927
⑪	S38.7.11	1,903
⑫	S47.7.12	1,629
⑬	S39.8.24	1,556
⑭	H11.6.30	1,548
⑮	S58.9.27	1,482

	洪水生起年月日	竜野地点 最大流量 (m ³ /s)	竜野地点上流域 平均日雨量 (mm)	年最大流域 平均日雨量確率 (Gumbel)
①	S45.8.21	2,900	186.8	約1/70
②	H10.10.18	2,403	110.1	約1/4
③	H16.8.31	2,282	145.9	約1/15
④	S40.9.10	2,230	91.3	約1/2
⑤	H16.9.29	2,228	139.9	約1/10
⑥	H2.9.18	2,177	184.1	約1/60
⑦	S51.9.10	2,031	191.2	約1/85
⑧	H16.10.20	2,016	131.2	約1/8
⑨	S39.9.24	1,967	165.4	約1/20
⑩	S40.7.22	1,927	122.8	約1/6
⑪	S38.7.11	1,903	117.6	約1/5
⑫	S47.7.12	1,629	115.5	約1/5
⑬	S39.8.24	1,556	164.5	約1/20
⑭	H11.6.30	1,548	118.0	約1/5
⑮	S58.9.27	1,482	111.6	約1/4

◎雨量確率の評価(年最大流域平均日雨量確率曲線図)



○対象洪水（S47.7.12）による氾濫シミュレーション



新宮町

宍粟市
山崎町

宍粟市
一宮町

凡例

浸水した場合に想定される水深(ランク別)

- 0.5m未満の区域
- 0.5～1.0m未満の区域
- 1.0～2.0m未満の区域
- 2.0～5.0m未満の区域
- 5.0m以上の区域

- 行政界
- 計算対象範囲

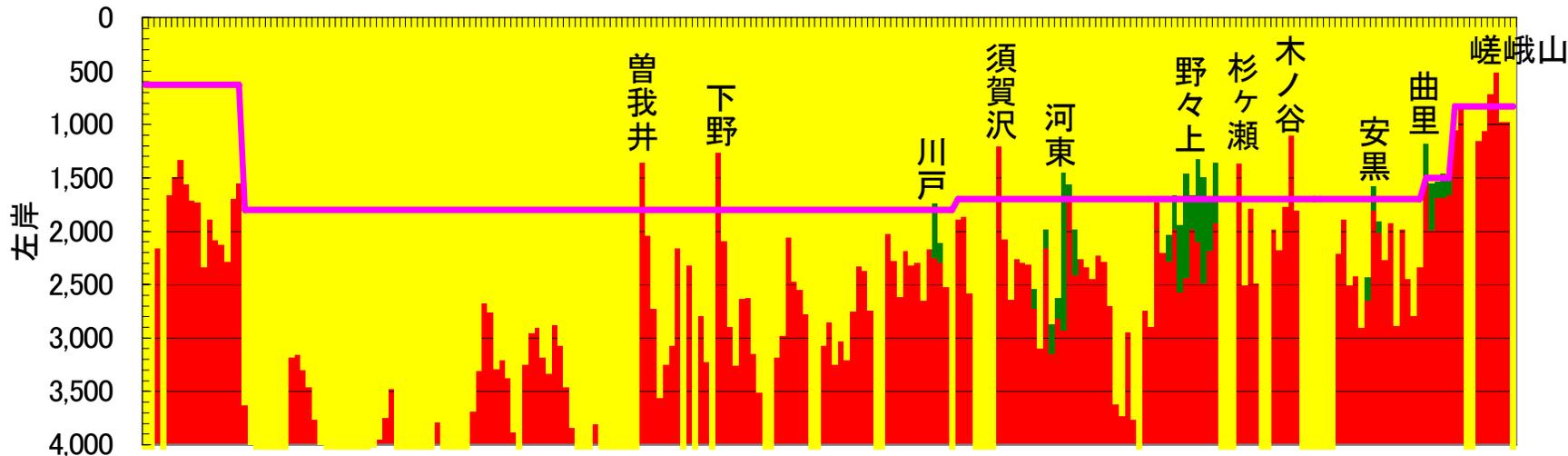
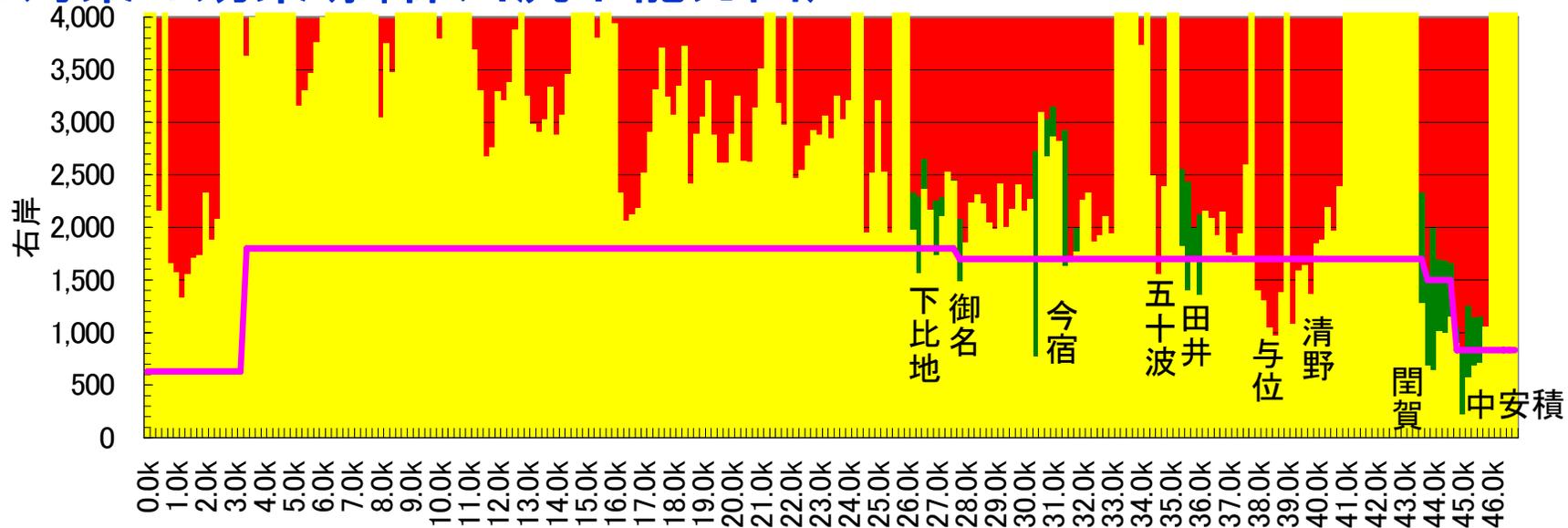
【想定される被害】

浸水面積 (ha)	浸水世帯数 (世帯)
375	床上:376 床下:378

7. 対策の効果

○対策の効果(揖保川流下能力図)

(m³/s)

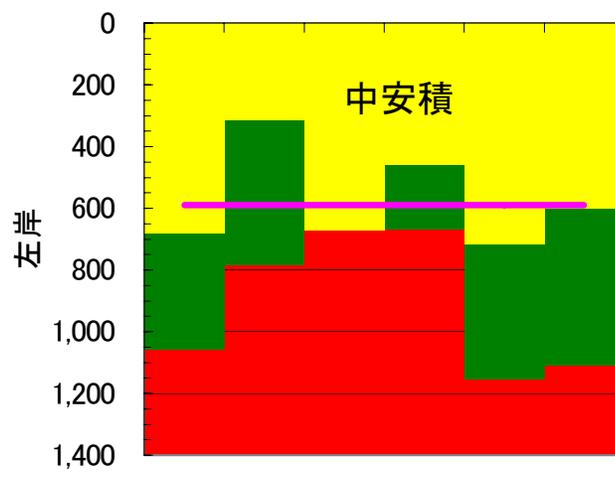
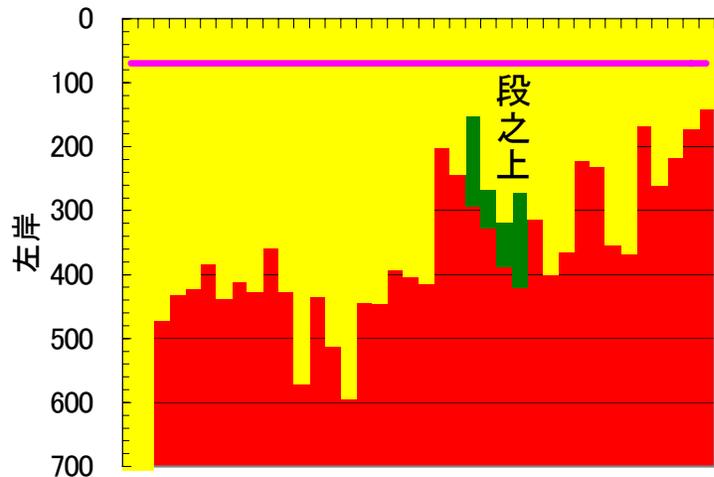
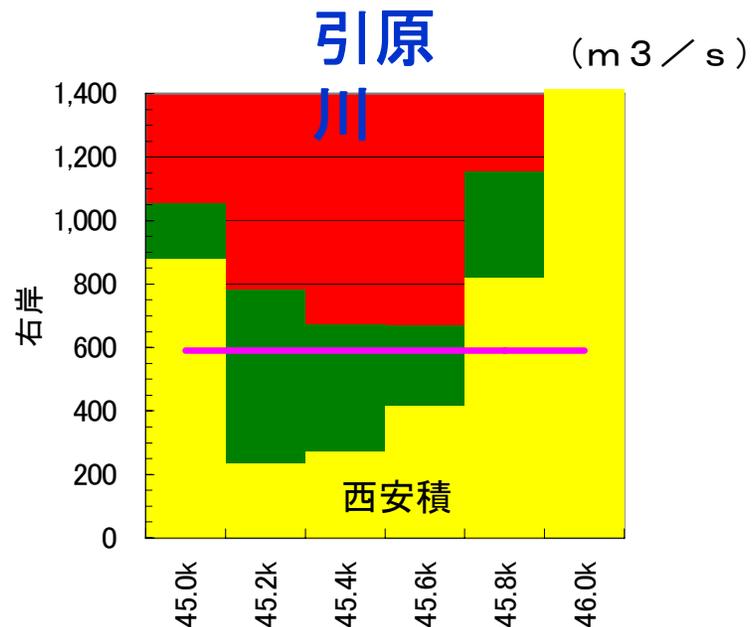
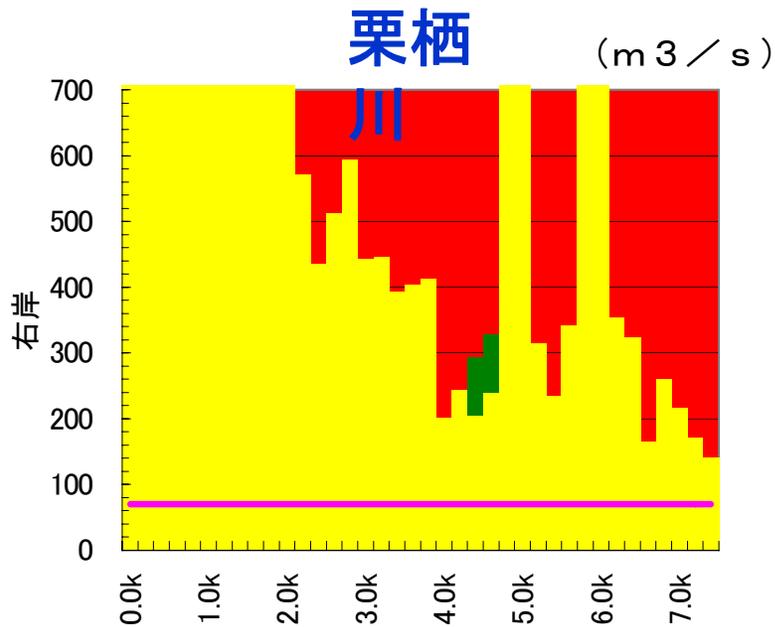


■ 対策後による流下能力増

■ 対策前流下能力

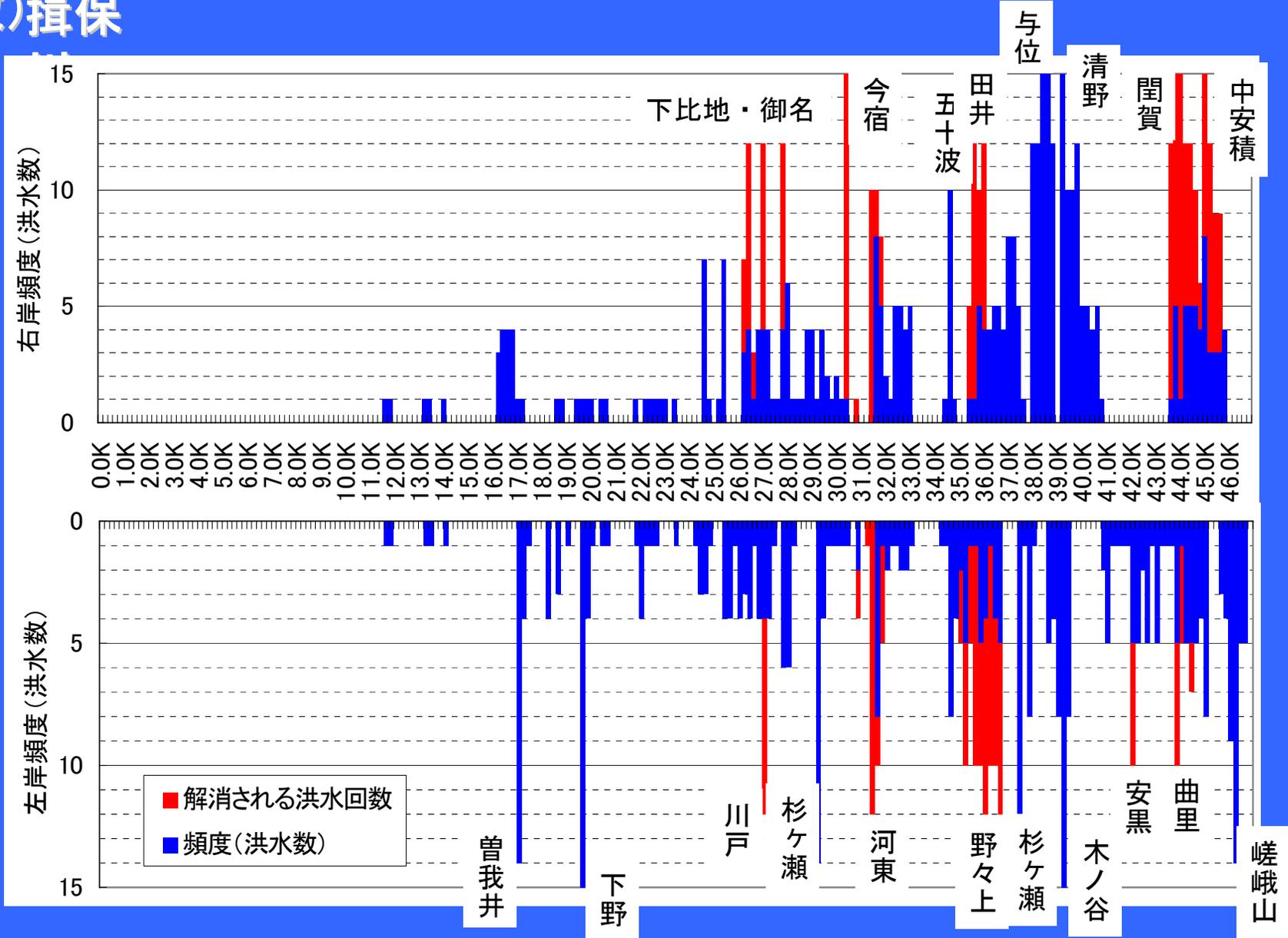
— S47.7洪水流量

○対策の効果(栗栖川・引原川流下能力図)



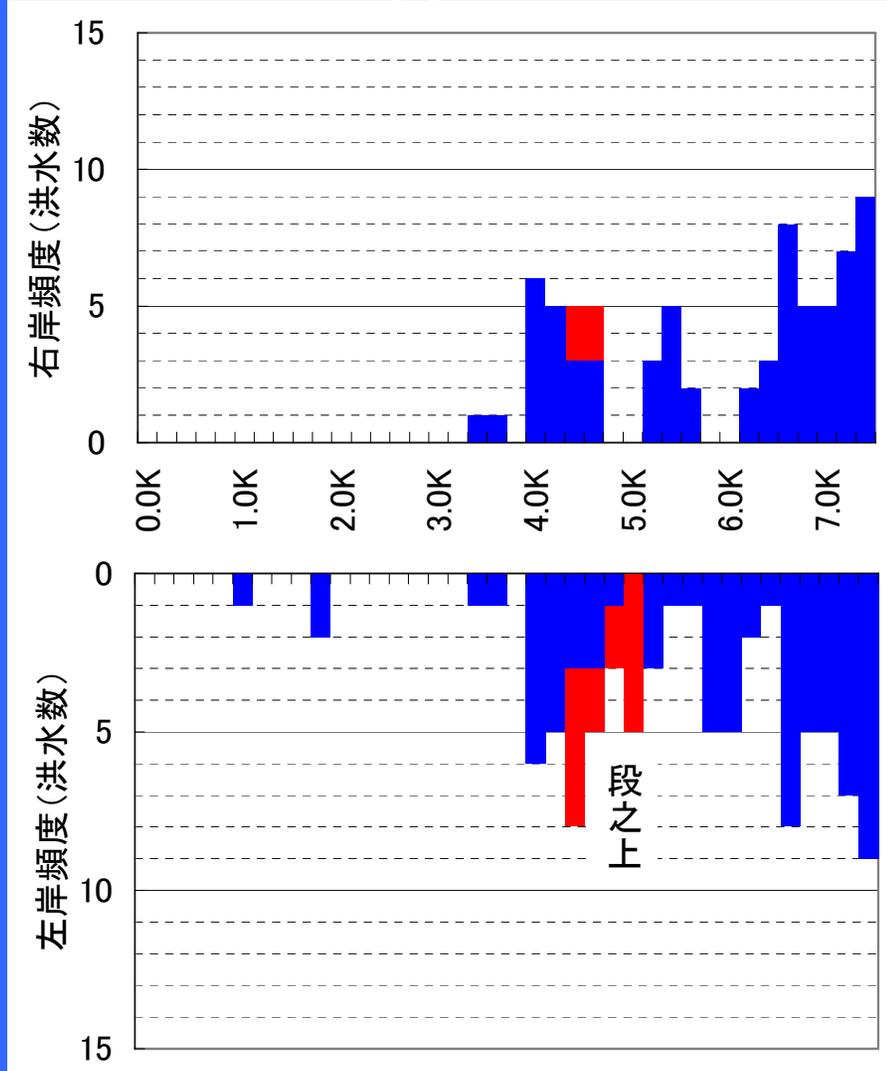
■ 対策後による流下能力増
 ■ 対策前流下能力
 — S47.7洪水流量

○対策の効果(流下能力不足発生頻度とS47洪水対策による解消数)揖保

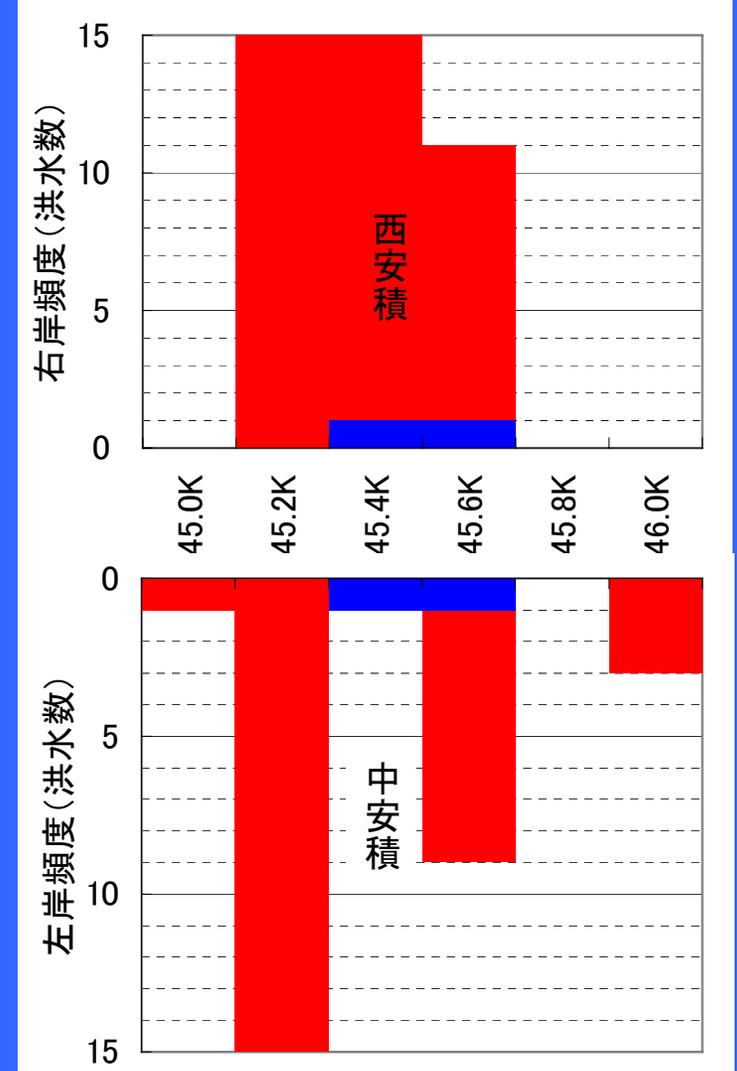


○対策の効果(流下能力不足発生頻度とS47洪水対策による解消数)

栗栖



引原



- 今回、S47.7洪水流量による氾濫を勘案し、複数の対策案を提示した。
- 今回も含めた流域委員会でのご意見、議論を踏まえて、「揖保川河川整備に向けた説明資料(第1稿)」作成時に河川管理者としての案を示すこととする。